

2017年度 大学全体 自己点検・評価報告書

[第3章] 教育研究組織

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。

評価の視点

- 大学の理念・目的と学部（学科または課程）構成及び研究科（研究科または専攻）構成との適合性
- 大学の理念・目的と附置研究所、センター等の組織の適合性
- 教育研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮

本学の建学の精神に基づいた教育理念は、知識や技術の単なる教授にとどまらず、ヒューマニズムに立脚した教養を重視し、人間、社会、歴史、世界、文明などについて自ら考える力を養う教育に努め、知識偏重ではなく、学生一人ひとりの素質を伸ばす支援をすることで、個性ある多様な人材を社会に送り出すことを目指すこととしている。

さらに本学は、「自らの思想を培う」ことのできる教育を実践することで、教育と研究の場において、総合大学としての特性を生かし、文系・理系の領域を融合した幅広い知識と、他文化を理解し、国際性豊かな視野を持つ調和のとれた文明社会を建設することが出来る人材の育成を図ることを教育の使命としている。（資料 C-1 p.1、C-2 pp.2～3）

本学は、この教育理念と教育の使命を具現化するため、札幌から九州・沖縄において8キャンパス、13の研究所及びセンター、4つの付属病院、更にはグローバルな教育・研究分野の展開を実効的なものとするために、国外に東海大学ヨーロッパ学術センター、東海大学パシフィックセンター、東海大学海外連絡事務所（ウィーンオフィス・ソウルオフィス・アセアンオフィス バンコク事務所・ラカバン事務所（モンクット王ラカバン工科大学内））を設置している（資料 C-1～4）。詳細は以下の通りである。（2017年5月1日現在）

① 学部・研究科

キャンパス名	組織	設置されている教育組織
湘南キャンパス	学部	文学部、観光学部（1年次）、政治経済学部、法学部、教養学部、体育学部、理学部、情報理工学部、工学部（工学部医用生体工学科（1、2年次湘南）
	大学院	文学研究科、政治学研究科、経済学研究科、法学研究科、人間環境学研究科、芸術学研究科、理学研究科、工学研究科、体育学研究科
	理工系博士課程（全キャンパス共通）	総合理工学研究科、地球環境科学研究科、生物科学研究科
代々木キャンパス	学部	観光学部（2年次以降）

高輪キャンパス	学部	情報通信学部
	大学院	情報通信学研究科
清水キャンパス	学部	海洋学部
	大学院	海洋学研究科
伊勢原キャンパス	学部	医学部、健康科学部、工学部医用生体工学科（3、4年次伊勢原）
	大学院	医学研究科、健康科学研究科
熊本キャンパス	学部	経営学部、基盤工学部
	大学院	産業工学研究科*1
阿蘇キャンパス	学部	農学部*2
	大学院	農学研究科*2
札幌キャンパス	学部	国際文化学部、生物学部

*1 2017年度入試より学生募集停止

*2 熊本地震の関係で、2016年7月1日より2019年3月31日まで、熊本キャンパスで授業を実施している。

②研究所・研究センター（資料 C-5）

既存の文明研究所、海洋研究所、総合医学研究所、教育開発研究センター、スポーツ医科学研究所、総合農学研究所、沖縄地域研究センター、総合科学技術研究所、情報技術センター以外に、学術の進展や社会の要請との適合性に対応するため、マイクロ・ナノ研究開発センター、先進生命科学研究所、総合社会科学研究所、平和戦略国際研究所を設置している。本学の研究所・研究センターは、建学の理念に基づき、以下の理念を掲げて活動している。

1. 総合大学の研究所・研究センターとして、建学の理念に文理融合を掲げる本学の特性を活かし、学際的・先端的な研究を国際的水準において展開する。
2. 産・官・学の連携を取りながら、研究成果を広く社会に還元する。
3. 本学における学術研究をリードするとともに、併せてその研究プロセスや研究成果をより質の高い教育に結びつけるよう努力する。

③医学部付属病院（資料 C-1 p.72、C-2 p.165）

本学では、地域の中核病院として最先端の医療を提供するため、伊勢原、東京、大磯、八王子に4つの付属病院を有し、質の高いチーム医療による高度な医療サービスを提供するとともに医学部、健康科学部の教育の場としている。

④教育・研究をサポートする教育関連の組織

現代文明論教育研究機構、現代教養センター、チャレンジセンター、国際教育センター、別科日本語研修課程、情報教育センター、課程資格教育センター、高輪教養教育センター、清水教養教育センター、熊本教養教育センター、阿蘇教養教育センター、札幌教養教育センター、教育支援センター、総合情報センター、付属図書館、エクステンションセンター、出版部、心理教育相談室、松前記念館、放射線管理センター、スポーツ教育センター、健

康推進センターが設置されている。また、2017年度より To-Collabo（トコラボ）推進室とエクステンションセンターを統合して、学園を取り巻く地域との連携を深めるため、地域連携センターを設置した。（資料 C-3、4）さらに、事務部にあった業務管理課の業務を、教育の現場に近い教育支援センターの技術支援課に移管することで効率化を高めた。

⑤国内外の附属機関・施設

ヨーロッパ学術センター、パシフィックセンター、孀恋高原研修センター、海洋科学博物館、自然史博物館、三保研修館、望星学塾、松前重義記念館、サテライトオフィス、学園史資料センター、海洋調査研修船「望星丸」、山中湖セミナーハウス、銀嶺荘、国際交流会館、校友会館、国際友好会館が設置されている。（資料 C-4）

以上のように、本学は、学術の発展や時代の変化、社会の要請に応え、継続的に改革の推進に取り組むにふさわしい教育組織を整備している。

点検・評価項目②：教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

上述したように、本学は、多面的なものの見方や歴史観、世界観、人生観をはぐくむ場として、また研究の成果を挙げていく組織として、様々な専門分野を包括する教育研究体制となっており、まさに組織は理念・目的と整合している。また、時代の変化と共に、将来、社会に必要とされる人材の育成をおこなっていくためには、常に現状の組織を見直し改革していくことが求められることになる。

具体的には、学部等の教育研究組織についての検証は、学長・副学長（企画・戦略担当）の体制の下、大学運営本部会議で定期的に議論・検証を行い、東海大学改組・改編委員会（資料 C-6）において審議し、審議した内容は、学部長会議・大学院運営委員会・専門職大学院運営委員会の議を経て決定している。学部長会議・大学院運営委員会・専門職大学院運営委員会は、全学部、研究科、事務系部署の長が出席メンバーとなっており、多くの学内関係者の目を通すことによって、改組・改編内容の適切性を担保している。

2017年度は、今後の少子化の影響や地域社会の要請の拡大を受け、教育体制の見直しを進めている。これらの案件については、上述したように、学長・副学長（企画・戦略担当）の下、大学運営本部会議、学部長会議、大学部長会等で審議がなされ、医学部・健康科学部、文学部の改組を行い、2018年度に文化社会学部・健康学部を新設することが決定され、2017年度中に学生募集が行われた。（資料 C-7）

英語やその他の外国語を学ぶ学生をサポートし、留学生を含む学生同士が交流する言語学習のため、国際教育センターに附属する施設するラーニング・コモンズとして「Global AGORA」を整備した。（資料 C-8）

大学全体の組織構成についての検証は、学長の諮問機関である東海大学大学評価委員会（資料 C-9）において、毎年度作成する「自己点検・評価報告書」において検討や見直しが行われ、その結果は、教育研究年報として公開している（資料 C-10）。また、本学では、第Ⅱ期中期目標を具現化するために、学部・研究科・附置研究所・教育・研究をサポートする附属機関全と、一部の国内外の附属施設（資料 C-3～4、C-11）において、毎年度ミッション・シェアリング・シート（以下、MSシート）（資料 C-12）を作成している。作成されたMSシートは、全学の自己点検・評価活動を統括する大学評価委員会でとりまとめ、各組織に対してコメントを付し、フィードバックしている。フィードバック後のMSシートについては、大学評価委員会の評価とともに学内公開している。これらの自己点検・評価活動を行うことにより、本学の教育研究組織の適切性は、定期的に検証されている。

（2）長所・特色

激しい社会の変革がある中で、2017年度に東海大学は創立75周年を迎えることができた。四半世紀後の100周年に向けて、さらなる大学改革を進めることで、QOLの向上によって社会に貢献できる大学に進化させなくてはならない。

2017年4月に開設されたGlobal AGORAは学生から好評を得ており、イベント数は62件、来場者数は延べ15,700人に達した（資料 C-13）。新たに発足した地域連携センターも、現代教養センターに下に組み込まれたチャレンジセンター等と連携して、大学を市民に開放するオープンキャンパス型のイベントであるグローバルフェスタを実施するなどの、地域連携活動を盛んに実施することができている。このチャレンジセンターは、現代教養センターとともにシティズンシップ教育の一環であるパブリック・アチーブメント型教育の実践の場としても位置付けられ、ボランティア、国際交流、ものづくり、地域活性などの活動を展開しており、高い成果を挙げている。

本学の特色として、体育学部や関連学部とともに、スポーツ教育センター、スポーツ医学研究所、教学部などが、スポーツを通じた学生の育成に力を注ぎ、輝かしい成績を得ている。海洋調査研修船「望星丸」を用いた、海洋調査や海外研修航海をはじめとする活動も、他にはない本学独自の特色となっている。

（3）問題点

時代の進展により、旧態依然とした組織や業務が一部に残っているという問題がある。とくに情報通信学部、情報理工学部を生み出した工学部は、情報化への対応が遅れつつある。2022年度に向けて大規模な改組およびカリキュラム改定を行うべく、準備作業を進める必要がある。2016年の熊本地震で大きな被害を受けた阿蘇キャンパスについては、熊本キャンパスで授業を実施している状況にある。新校舎の建設などを行うことで、農学部の教育・研究が、震災以前よりも推進し発展させなくてはならない。第Ⅱ期中期目標に合わせて各部門で実施されてきたMSシートについても、より実効性を高めるための見直しが求められる。さらに、災害時に即応できる組織や体制を強化する必要性があり、事務部長を中心としたワーキンググループを立ち上げることにした。

(4) 全体のまとめ

本学の教育研究組織は、創立者の建学の精神に基づいた教育の使命と教育理念を具現化するため、札幌から九州・沖縄において8キャンパス、13の研究所及び教育センター、4つの病院、更には国外にハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）や東海大学ヨーロッパ学術センター等を設置し、総合大学としてのスケールメリットを生かした組織体制になっている。また、自己点検・評価活動も毎年度実施されている。

(5) 根拠資料

- C-1 学校法人東海大学 学園総覧 2017
- C-2 大学案内 TOKAI UNIVERSITY GUIDE BOOK 2017
- C-3 東海大学組織図
- C-4 東海大学オフィシャルサイト 教育支援・施設
<http://www.u-tokai.ac.jp/about/research/>
- C-5 東海大学研究所規程
- C-6 東海大学改組・改編委員会規程
- C-7 2016 第2回学部長会議議事録
- C-8 Global AGORA リーフレット
<https://www.u-tokai.ac.jp/international/news/2017AGORA%20%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%95%E3%83%AC%E3%83%83%E3%83%88.pdf>
- C-9 東海大学大学評価委員会規程
- C-10 教育研究年報
http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/annual_report/
- C-11 東海大学オフィシャルサイト 学部・大学院
<http://www.u-tokai.ac.jp/academics/>
- C-12 ミッション・シェアリング・シート（MSシート）サンプル
- C-13 2018年度第2回学部長会議資料